

- 実力テストが終了、期末考査は間もなく
- 2024年度入試の志望動向2

「出会いを大切に」

保健体育科 米原 紗那

みなさんこんにちは。新宿高校で働き始めて早半年がたちました。皆さんと過ごす毎日がとても楽しく時間の流れが速く感じます。何を書いたらいいのかわからないので、とりあえず私の話をします。(笑)

私は子供が大好きで将来は子供と関わる仕事をする！と小学生の頃から決めていました。中学に上がるまでは保育士や幼稚園の先生になりたいと考えていました。体育教師を目指し始めたのは中学の頃に出会った恩師がきっかけで自分も恩師のような先生になりたいと思い教員を目指し始めました。でも私は、正直勉強が苦手です。というより嫌いです、

それでも『教員になる』という目標のために嫌いな勉強を頑張りました。そんな私が、今までで一番勉強したのは教員採用試験の勉強です。

私は、大学3年生のうちに卒業に必要な単位をほとんど取り終えていたので、大学4年生は週1回1時間の授業だけでした。そのため、家にいる時間が多く、いざ勉強をしようと机に向かってもダラダラしてしまう、少しだけ休憩～。とやっているうちに時間が過ぎていきました。どうしたものか、と考えた時に、まずは生活習慣を変えてみようと思いました。私は、夜が苦手で夜更かしができないため、テスト勉強は基本的に朝やっていました。夜が苦手な分朝が得意で、夜は21時に寝て、夜中の3時に起きて勉強していました。朝4時から家の近くのカフェで勉強し、昼間は図書館、夜は自由時間で勉強はしないと決めてやっていました。家だとダラダラ誘惑に負けてしまうので、なるべく外で勉強する時間をたくさん取る。という生活に変えました。正直勉強することは辛かったし何度もやめたいと思いました。それでも頑張ることができたのは『教員になりたい』という気持ちが強かったからです。

実際に新宿高校で働き始めて、毎日すごく充実しています。やることがたくさんあり仕事は大変ですが、それでも自分のやりたかった仕事ができやりがいを感じ、なにより皆さんと一緒に学校生活を送れることがとても幸せです。ふとした時に、あの時辛くても勉強することを諦めず頑張ってよかったと思います。

皆さんは今進路のことで勉強が大変な時期だと思います。将来何をやりたいかまだ決まっていない人もたくさんいることでしょう。でもいつか自分が本当にやりたいことが見つかった時、今までの努力は無駄ではなかったと思える日がきつときます。人生100年時代と言われるこの世の中で、自分の思い通りにいかないことや挫折を味わうこともあるかもしれません。それでも、**自分が信じた道を歩み続けてください。**

私自身まだ2年間しか生きていないので、たいしたことは言えませんが、私の人生経験の中で皆さんに一番大切にしてほしいと思うのは「**人との出会い**」です。皆さんはこれから大学生や社会人になってたくさんの人と出会うことでしょう。この広い世界で出会えたことは奇跡です。そして、たくさんの人との出会いの中で自分の「**なにか**」を変えるきっかけになる出会いもきっとあるでしょう。たくさんの出会いを通してもっともっと成長してってください。皆さんの未来が幸せであることを願っています。

○実力テストが終了、期末考査は間もなく

11月8日（水）実力テストがありました（3年生は7日午後もあり）。

1年生にとっては、3回目でした（5月スタディサポート、7月実力テスト）。前2回は、中学までの蓄積も試されましたが、今回は高校入学後の学習状況が試されるものになっています。模試の見直し（間違えた部分をもう一度解くなど）はしたでしょうか？苦手分野が生まれないように、今後の勉強を進めましょう。

2年生は、初めて理科・社会の科目を受験しました。「問題が難しかった」と感じた人は、恐れること、気にすることは全くありません。来年の今頃には、必ず、今回の問題が「初歩的で易しい問題だった」と思えるはず（もちろん、勉強したらの話ですが）。英語・数学・国語の感触はどうでしたか？苦手分野はありますか？今回間違えた、正解したがあやふやだったところは、必ず見直して、2度と同じ間違いを繰り返さないように、勉強を進めましょう！また、最近、3年次の教科選択がほぼ決まってきたからか、大学受験や勉強に関する質問が多くなってきているように感じます。情報が過多だからこそ、振り回されないように、よく調べて（教員に質問するなど）、自信を持って志望校を決め、勉強を進めましょう。

3年生は、19日（日）プレ共通テスト（河合塾）が、全員が受験する最後の実力テストでした。今後、テストが返却され、河合塾と駿台・ベネッセの共通テスト模試・記述模試のドッキング判定が分かります。D・E判定に決してひるまないでください。先日の進路講演（駿台）の通り、あきらめずに頑張り続ければ、合格の道は、必ず開けます。また、実力テストの結果は、現在の1ヵ月前の自分の実力です。現役生の実力は、試験当日まで必ず伸びます。まだ、共通テストには約50日、私立大学一般入試にはプラス2週間以上、国公立大学前期試験にはプラス40日以上もあります。11月、12月が踏ん張りどころです。受験勉強をやりきりましょう。

さて、期末考査（3年生は学年末考査）が迫ってきました。受験は定期考査の延長です。合格速報会や進路のしおりの合格体験記で、先輩方のほとんどが、「定期考査はしっかり取り組んだ」と言っています。試験勉強をしっかりやりきり、期末考査に臨みましょう。

○2024年度入試の志望動向2..安全志向・現役志向の入試に？

今回は11月に発表された駿台予備学校の分析結果を紹介します。分析結果は、今後の模試の志望動向で変化すること、予備校ごとに異なることに注意してください。

★大学別の志望動向..第1回駿台・ベネッセ大学入学共通テスト模試（9月実施・受験者数36万人）より。

前号の河合塾の分析結果（7月実施・第2回全統共通テスト模試）と比べるため、同じ大学を掲載しました。

指数は、国公立大学は前年度の前期第一志望者数を100、私立大学は前年度の総志望者数を100としたもの。

①東京大学

全体の指数は91。学類別は、理科三類107を除き、他は減少。理科一類・三類は超上位層（偏差値75以上）が減少し、A・B判定の人数が少ないため、C判定以下にもチャンスあり。

②東京工業大学

全体の指数は92。情報理工は一般選抜の定員が72名→112名と1.6倍の増加でチャンスあり。

③一橋大学

全体の指数は96。学部別は、ソーシャル・データサイエンス113、経済110が増加。法の上位層は変わらず、商はあと一步の層（偏差値65未満）が激減。

④筑波大学

全体の指数は97。学群別は、生命環境123、総合理系I119、医110、芸術108が増加。人間、情報、理工は後期が減少、強気にチャレンジしたい。

⑤千葉大学

全体の指数は97。学部別は、理117が増加。但し、理は情報・データサイエンス新設により大幅に志望者が流れる可能性あり。

⑦横浜国立大学

全体の指数は97。学部別は、経済115を除き、他は減少。

⑧東京都立大学

全体の指数は100。但し、学部毎に、反動増減が目立つ。前年度減の法・経済経営・理は増加、前年度増の都市環境は減少。

⑨お茶の水女子大学

全体の指数は90。学部別は、生活科学65で大幅減。

⑩早稲田大学

全体の指数は91。学部別は、教育85、文化構想・国際教養86で大幅減。国際教養は全ての偏差値帯で減少。基幹理工の学系Ⅲ偏差値70以上が多い（難関国公立大学の合格・進学者層に当たる）のと、偏差値65以下が大幅に減少したため合格の可能性あり。

⑪慶應義塾大学

全体指数は94。学部別は、看護医療84、環境情報86で大幅減。法（法律）は偏差値75以上が多い（難関国公立大学の合格・進学者層に当たる）ので、偏差値70未満でも合格の可能性あり。理工の学問Bは全ての偏差値帯で減少、チャレンジしたい。看護医療はあと一步の層（偏差値60未満）が激減。

⑫上智大学

全体指数は102。学部別は、外国語111、神109などが増加。総合グローバル93、法96が減少。入試日程の変更で、GMARCH・早稲田と重なる学部があるので注意（志願者が分散して難易度が変わるなど）が必要。

※上記以外の国公立大学と私立大学の指数

北海道93（総合入試理系は定員増だが指数は91でチャンス大）、東北102、名古屋98、京都96、大阪94、神戸96、九州96、埼玉90、東京海洋106、電気通信106、東京外国語87、東京学芸99、東京農工96、横浜市立91。

青山学院89、学習院104、中央102、法政93、明治95、立教98。私立大学の志願者数の減少は、受験生が第一志望の勉強を重視して、受験校を絞っていることが背景の1つと考えられる。

先輩からの言葉

高校生の頃の私へ

スガツネ工業株式会社 専務取締役 菅佐原茂
35回生1983（昭和58）年卒業

40年以上も前のことになるが、新宿高校へ入学した当時のことを鮮明に覚えている。特に、授業のレベルの高さと上級生の大人な雰囲気によって圧倒された。難解な授業、優秀なクラスメート、ひげの生えた生徒、メイクをした先輩。これが新宿高校か！と仰天した。自由と責任を中学校卒業後にいきなり突き付けられたようなものだった。早速授業には遅れ始め、居場所が部活となった。

走ることが好きだったので、迷いなく陸上競技部に入部した。以来、現在まで、走る行為が肉体のみならず精神的にも支えとなっている。伝統ある陸上競技部は、1967（昭和42）年から1971（昭和46）年にかけては5年連続

でインターハイに学生を輩出し、女子走り高跳びで3位入賞、男子三段跳びで優勝という輝かしい記録を残していた。今でも新しい国立競技場を横目に走っていると、高校時代を必ず思い出す。私はその後、駒澤大学に進学し陸上競技を続け、箱根駅伝6区にエントリーされるも当日変更となり夢叶わず。いつか新宿高校出身者が箱根路を走るのを夢見ている。

社会人となってから、各界で活躍する偉大な先輩方とお会いする機会があった。改めて卒業生が各分野で活躍されていることを誇りに思い、大いに仕事の励みとなっている。還暦を目の前にして、幾度も朝陽を浴びて走り続け、新たな挑戦をしたい。

学生時代は陸上競技に没頭した私だったが、思えば逃げ場でもあった。もちろん、その場所が私に自信やかけがえのない経験を与えてもくれた。しかし、相当に偏重のあった学生生活は、その後の補完が必要なのは必然の流れであった。単に学業ということに限らず、当時の思考や習慣は良くも悪くも尾を引くこととなる。当時を振り返り、高校生の私へ伝えたいことが二つある。優秀な新宿高校生へは差し出がましい内容であろう。

私には難解な授業ではあったが、全ての科目が降参というわけではなかった。せめて、たった一教科だけでも得意にしておけば良かった。それが次の教科への良い連鎖につながったかもしれない。モチベーションを上げるにはどうしたら良いかと悩んだものだ。しかし、学業が本業という大前提がある。モチベーションは大切だが、まずは本業に対して無責任であってはならなかった。モチベーションの有無にかかわらず、意志の力で学業に励むべきだった。社会に出ると、仕事は必ずしも好きなことだけでないことを知るのだから。

二つ目は、充実した高校生活を送るために、3年間の意義を俯瞰すべきだった。怠ったことを挙げれば切りがない。例えば、行事に積極的に参加する。優秀な先生方との会話の機会を持つ。多くの生徒と意見を交わすなどだ。当時は視野が狭かったうえに、尖った部分もあった。感受性が強いあの頃は、メンタルの弱さが異質なものと苦手なことに触れるのを避けさせていたのだ。物事を多面的に見ることができると真理に近づくというが、学生の時にそのような能力を養う環境を与えられていたことに後になって気づく。2022(令和4)年他界された京セラの創業者である故稲盛和夫氏は、「一流の知性とは、二つの相対立する考えを同時に心に抱きながら、しかも正常に機能し続けられる能力」という著名なアメリカの作家の言葉を引用している。

多様な組織の活動に参加したり、リーダーの立場になったりすると、一人でできることの限界を知る。ところがそこに違った価値観を持った人や反対意見の人もある。それでも、適切な会話を続ければ、より深みのある内容に近づく。より良い方向性を示し、組織を整えることにもつながる。たとえ小さな規模でも、新宿高校でそのような体験ができただろう。改めて、他の人との関係で自分が成り立ち、協力することでより大きなことができることを実感したのは、社会人になってからであった。

こんな私でも、新宿高校愛はととても強い。コロナ前、インターンシップのご依頼で新宿高校生を我が社にお招きでき、少しでもお役に立てたことが嬉しかった。

長きにわたりつないできた新宿高校の伝統ある襷が全ての学生に渡り、皆さんの夢が叶うことを心より願っている。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

※今後の予定(進路関係)

12月14日(木)までに大学入学共通テストの受験票到着

21日(木)共通テストシミュレーション(3年生)

22日(金)共通テストシミュレーション(3年生)